

清流の国ぎふ 地歌舞伎

常盤座歌舞伎保存会 (中津川市)

中津川市の旧恵那郡福岡町は、地歌舞伎が大変盛んな地域です。当保存会の活動拠点「常盤座」は、明治二十四年に小屋開きが行われました。常盤座は、明治期の劇場形式を残す木造の芝居小屋で、平成八年の大改修では、半世紀ぶりに回り舞台などが整備されました。この常盤座で行われる地歌舞伎公演は、小屋開き当時そのままの熱気に満ち溢れています。地歌舞伎のほかにも、演劇や映画上映などが行われており、地域の文化交流の場として親しまれています。

当保存会では、伝統文化の継承と子どもたちの健全育成を図るため、子ども歌舞伎教室を常盤座で開催しています。将来にわたって地歌舞伎を伝承していくための取組みとして、毎年三月の最終日曜日に行われる定期公演に合わせて、子ども歌舞伎教室発表会も実施しています。

昔はこの地域に四つあった芝居小屋も、今は常盤座一つとなりましたが、この常盤座を未来へと受け継いでいくためにも、地歌舞伎ファンの獲得に努めています。



東濃歌舞伎中津川保存会 (中津川市)

当保存会は、江戸時代に、中山道中津川宿の旦那衆が芝居小屋で上演していたのが始まりだといわれています。その後、幾度かの変遷を経て、平成三年に現在の東濃歌舞伎中津川保存会となりました。

昭和二十七年の中津川文化祭での公演を皮切りに、毎年定期公演を続けています。保存会独自のオリジナルの芸題も多く、岐阜県及び中津川市と連携して、中国、香港、シンガポール、フランス、イギリス、タイ、ニューヨーク、リトアニア、オーストラリアなどの海外での公演実績もあります。海外の公演では、岐阜県の代表として地歌舞伎を披露する機会となるため、張り切つて稽古に励んでいます。本番では、地歌舞伎の魅力を思う存分アピールし、毎回、高い評価をいただいています。

最近では会員数も増え、中村高女師匠・門の加賀家に伝わる台本の復活、狂言にも取り組むなど、小学校低学年から高齢者まで年齢の枠を越えて活動を行っています。



新型コロナウイルス感染予防対策について 安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- 発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- マスク着用の方(マスク非着用の方はご入場できません)
- 手指消毒及び検温の実施(37.5℃以上の方はご入場できません)
- ソーシャルディスタンスの確保
- 出演者への声援や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止
- 公演中のおひねり、大向こうの禁止

※「岐阜県感染警戒QRシステム」の登録をお願いします。
ご登録をいただきますと、感染者が発生した場合、同じ日に来訪された方にメールでお知らせいたします。

次回公演のお知らせ
清流の国ぎふ
地歌舞伎
勢揃い公演

7月24日(日)開催!
出演：明智町歌舞伎保存会(恵那市)
坂下歌舞伎保存会(中津川市)
※詳細はホームページにてお知らせいたします。

ぎふ清流文化プラザ
YouTubeチャンネル
地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中!

地歌舞伎とは
地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭りで演じたり、芝居小屋を造つたりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

「清流の国ぎふ」文化祭2024さきかけプログラム

清流の国ぎふ 地歌舞伎



2022年4月30日(土)

◆会場ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

◆開演 14時00分 (開場13時00分)

◆上演外題・出演

14時00分 (20分)

◆新舞台の幕開け(開幕式典)

14時35分 (45分)

◆青磁梅花紅彩画 稲瀬山勢揃いの場
常盤座歌舞伎保存会 (中津川市)

15時40分 (70分)

◆神霊矢口渡 頓兵衛住家の場
東濃歌舞伎中津川保存会 (中津川市)

◆終演 16時50分(予定) 演目は変更となる場合があります。



イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。



古典芸能解説者 葛西 聖司氏

新舞台の幕開け(開幕式典)

◆出演

岐阜県知事 古田 肇
 岐阜県地歌舞伎保存振興協議会会長 小栗 幸江
 地歌舞伎保存団体代表 三十二名
 東濃歌舞伎中津川保存会 役者

青砥稿花紅彩画

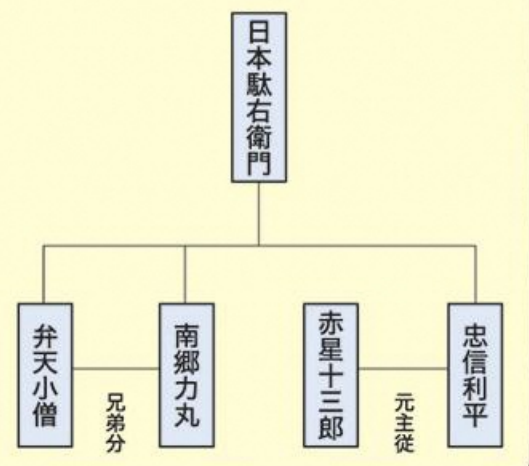
稲瀬川勢揃いの場

常盤座歌舞伎保存会(中津川市)

桜咲き乱れる稲瀬川堤に、迷子を捜すと見せかけ、捕手達が待ち伏せをしているところへ、盗賊の張本 日本駄右衛門を筆頭に弁天小僧菊之助、忠信利平、赤星十三郎、南郷力丸らが揃いの傘に、それぞれの模様の衣裳で登場します。そして、ツラネと呼ばれる七五調の名台詞でひとりずつ名乗りを上げ、捕手達と大立ち回りを演じます。



青砥稿花紅彩画 稲瀬川勢揃いの場



神霊矢口渡

頓兵衛住家の場

東濃歌舞伎中津川保存会(中津川市)

矢口の渡し守 頓兵衛は、新田義興を討った褒美の金で、舟渡しには似つかわぬ屋敷に暮らしています。一人娘のお舟は、父とは似ても似つかぬ気立ての良い娘です。この屋敷に義興の弟 新田義峯が愛妻の傾城(遊女)うてなと共に一夜の宿を求め訪れるところから幕が開きます。

お舟は初め宿を断りますが、気品ある義峯に一目惚れしてしまいます。お舟は積極的に義峯に迫りますが、新田家の白旗のたたりで二人は気を失います。うてなの機転で二人は息を吹き返しますが、それを門戸からのぞいていた下男 六蔵はお尋ね者の義峯であると気付きます。お舟は自分に気がある六蔵をなだめすかし、父と二人の手柄にするよう伝え、時間をかせぎます。

六蔵から話を聞いた頓兵衛は、暗闇の中を忍んで床下から義峯を狙います。手応えを感じた頓兵衛が刀の先を見ると、そこにはお舟の苦しむ姿がありました。お舟は自ら義峯の身代わりとなり、彼らを逃がしたのです。頓兵衛は烈火のごとく怒り、金のため一人娘さえも切り捨て、川の兩岸を包囲する合図となる狼煙をあげ、義峯を追います。

瀕死のお舟は、櫓の太鼓を打てば囲みが解かれることを思いだします。お舟は邪魔しようにとする六蔵を殺し、最後の力を振り絞って太鼓を叩き、追っ手を欺きます。頓兵衛は船で川に漕ぎ出しますが、義興の亡霊が放った矢によって打ち抜かれます。義峯の無事を祈りながら絶命するお舟。頓兵衛もまた、苦しみながら息絶えます。

◆配役

渡し守 頓兵衛	勝 素行
娘 お舟	安江 麻里
下男 六蔵	兼山 丈晴
新田義峯	山本 亮
遊女 うてな	遠山 竜也
人形遣い	大浦 眞幸
後見	林 ひろこ
	遠山 朝奈

イヤホン同時解説

葛西 聖司氏

東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。「教養として学んでおきたい歌舞伎」「教養として学んでおきたい歌舞伎」の歌謡本、「文楽のツボ」ほか著書多数。



振付指導	伊藤 麻里
(監修)	中村 高女
太夫	竹本 文
三味線	豊澤 龍太
下座	杵屋 勘輪咲
顔師	松本 奈津美
	松本 宙士
	松本 茂み
	松本 匠平
着付	林 まゆみ
	小川 厚子
	松本 真由美
衣裳	中津川 衣裳
狂言方附け	磯貝 哲

神霊矢口渡 頓兵衛住家の場

